

多摩ジェンダー教育ネットワーク 第8回～第10回会合
2011年6月30日～2011年12月22日

主催：国際基督教大学ジェンダー研究センター(CGS)加藤恵津子、田中かず子
 一橋大学ジェンダー社会科学研究センター (CGraSS) 木本喜美子

2009年11月に発足、第1回の会合を開いた「多摩ジェンダー教育ネットワーク」(以下「ネットワーク」)は、専任・非常勤を問わず、多摩地区の大学でジェンダー教育に携わる人々の「人間関係」である。ジェンダー関連科目はあっても、ジェンダー教育がプログラムや専攻として制度化しにくい日本の諸大学にあって、その教育に携わる人々は孤立しがちである。当ネットワークはそのような人々をつなぎ、経験、スキル、そして直面している問題を分かち合うことで互いをエンパワーすべく始まった。これには「顔の見える」関係づくりが重要と考え、まずは行き来のしやすい多摩地区の大学教員をメンバーと定めている。

2011年度には、以下の通り計3回の会合を開くことができた(以下、敬称略)。

〈第8回会合〉

日時：6月30日(木)、19:00～21:00

テーマ：入門～中級クラスにおける教材

発表者：穂田照子(桜美林大学)、石川照子(大妻女子大学)、稲本万里子(恵泉女子大学)、田中弘子(元愛媛大学、新宿区相談員)、長島佐恵子(中央大学)

場所：一橋大学

参加者：14名

当初より要望のあった、教材シェアの第一弾。コミュニケーション学、歴史学、美術史、文学などの異なる分野でジェンダー教育を行う5名が、推薦できるテキストや視聴覚教材を紹介、また講義での効果的な使い方を、経験

に基づき披露した。これとは別に、国立女性教育会館（NVEC）の市村桜子氏から、新しい情報利用システムの案内もいただいた。

〈第9回会合〉

日時：10月6日（木）、19:00～21:00

テーマ：暴力など、扱いが難しいテーマにおけるヴィジュアル教材の使用法

発表者：田中妙子（純心女子大学）、福田紀子（白百合女子大学インターン）

場所：一橋大学

参加者：11名

DV、途上国における女性・子供への暴力や貧困など、視覚的にショッキングなテーマを講義で扱う際に勧められるヴィジュアル教材（ビデオ、写真）と、そのふさわしい使用法を2名が紹介した。見せっぱなしにせず学生からの反応を引き出す、他人事で終わらせず「自分たちに関わりはないか」を受講生に考えさせるなどのコツが披露された。

〈第10回会合〉

日時：12月22日（月）、19:00～21:00

テーマ：近現代を相対化する：言語と社会制度から見るジェンダー

発表者：穂田照子（桜美林大学）、野本京子（東京外国語大学）

場所：東京外国語大学

参加者：10名

今日のジェンダー関係が近現代の産物であることを、いかに学生に教えるか。言語学、近現代日本の社会制度を教える2名が、担当する講義の内容を紹介しつつ論じた。コメント用紙など、学生の意見や疑問を引き出す工夫も披露。これとは別に、「ピナット（ピナツボ復興むさしのネットワーク）」および「ロラネット（フィリピン従軍慰安婦支援グループ）」の出口雅子氏より、その活動や制作映画の紹介をいただいた。

〈第11回会合（予定）〉

日時：2012年4月26日（月）、19:00～21:00

テーマ：性教育の可能性—セックスとジェンダーをつなぐ学習の創造—

発表：村瀬幸浩（“人間と性”教育研究協議会）

場所：一橋大学

会合はいずれも、前半が発表、後半が質疑応答・意見交換という構成であり、活発な発言が交わされた。

本ネットワークの開始より2年が経った。あらためてメンバーの要望に耳を傾け、より多くの人々の参加を得られるよう、また参加者にとってより強いエンパワーメントの機会となるよう、内容・形式ともに工夫改善していきたい。

加藤恵津子（CGSセンター長）

**From 8th to 10th Meetings of the Tama Gender Education
Network 2011
June 30 - December 22, 2011**

Hosts: Etsuko KATO, Kazuko TANAKA, Center for Genders Studies (CGS),
ICU

Kimiko KIMOTO, Center for Gender Research and Social Sciences
(CGraSS), Hitotsubashi University

The Tama Gender Education Network (hereafter “Network”) is an association of fulltime and part-time teachers who teach gender-related courses at universities in Tama district. The Network launched in November 2010. The Japanese academic environment, which discourages the institutionalization of gender studies, tends to isolate teachers of this academic area from each other. The Network aims to support the teachers, mutually empowering them through opportunities to share their experiences and teaching skills, as well as discuss hardships they are faced with. In order to enhance face-to-face relationships, the Network started within the district of Tama.

In AY2011 the Network held its 8th to 10th meetings focusing on various topics such as how to use visual material that includes violence, or how to relativize contemporary gender practice in historical points of view.

Etsuko KATO,
CGS Director